

## 大学向け「情報サービス産業セミナー」開催



平成 25 年 4 月 15 日、JJK 会館(東京都中央区)にて、全国の国公私立大学の就職指導者(就職部課長、就職指導教授等)を招いて標記セミナーが開催された。

このセミナーは、大学の就職指導者に情報サービス産業の現状と将来展望を示すなど産業の魅力をアピールすることにより、情報サービス企業の採用活動に弾みを付けることが狙いであり、JISA 人材部会採用 WG(座長:中谷光一郎・(株)SCSK 上席執行役員)が企画運営を担当した。参加者は、大学関係者 36 名、JISA 会員企業採用担当者など 42 名ほか計 92 名。

JISA 神山茂副会長(広報・人材委員長)の開会の挨拶に始まり、JISA 横塚裕志理事(東京海上日動システムズ(株)社長)と三谷慶一郎氏((株)NTT データ経営研究所・パートナー コンサルティング事業部門長)による二本の講演が行われた。

横塚氏は、「SE が日本を救う」と題して講演し、ユニクロ、セブンイレブン、楽天といったグローバルビジネスで成功している日本企業や韓国の先進的な電子政府システムを例に示して、「日本企業を再生させるためには、いまや IT の活用力を十分に引き出すことが必須であるが、それができていない。日本の強みである『おもてなし』(ビジネスプロセス)を IT で描くことが重要であり、業界が求める



のは、それができる人材である」と訴えた。

一方の三谷氏は、「求められる IT 人材像」と題して講演し、「IT 業界における課題に鑑み、異分野と IT の融合領域においてイノベーションを創出することが必要である。そのためには、課題解決力よりも『課題発見力』を養うこと、また、複雑で重層的な課題を解決していくには、多様なステークホルダーを巻き込む力が重要であり、コラボレーションに有効なのは、ディベートではなく、相手の意見を尊重し共通認識が得られる『ダイアログ』である。『よそ者、若者、バカ者(外の目、無邪気さ、破天荒な考え)』など、多様な視点を受け入れる環境になければならない」と訴えた。



続いて、上記講演者 2 名の間で、①日本企業の弱体化と IT による競争力強化の可能性、②今後、情報サービス産業にはどのような人材が必要か、③産学でどのように IT 人材を育成していくべきか、の 3 点を論

点として、対談形式でディスカッションが行われた。時には会場を巻き込み質疑に応じるなど、自由闊達な雰囲気の中で進められ、「『SE が日本を救う』ために、SE は、技術力よりもよりロジカルシンキングとデザインシンキングを養わなければならない。大学からそうした見込みのある人材を送り込んでもらい、業界が鍛えるようにしたい」と締めくくられた。

(薦田)